

伝統的な木造工法の取り組み

これまで会津地方で受け継がれてきた伝統的な木造建築技術を後世に伝えていこうと、研修室（和室）を「雪国独特の太く頑丈な木組み」としました。また、その原材料として、地元慶徳町の森林から生産されたアカマツ材を活用しています。



研修室の梁



研修室の板材

アカマツ材について

アカマツは、合併前の喜多方市で「市の木」に指定されていたことから分かるように、地元で最も親しまれている樹木の一つです。また、アカマツ材は強度に優れていることから、古来より建築の梁材などに重宝されてきました。

しかし、松くい虫による被害の拡大や、安価な外材に押されてきたことから、現在、会津地方の市場において、アカマツ材は流通していません。

このため、慶徳町舞台田の供有林のアカマツを伐採、搬出、製材し、交流センターの部材として活用しました。



【慶徳町のアカマツの化粧柱】